

中学生と保護者のみなさんへの「FAQ」まとめ



特別選抜と一般選抜のうち、1つしか受験できないの？

- A. 特別選抜で不合格になった場合は、一般選抜が受験できます。
また、特別選抜、一般選抜で、合格者数が募集人員に満たない高校では、二次選抜を実施します。



調査書の「活動/行動の記録」には何が書かれるの？

- A. 教科、総合的な学習の時間、特別活動、部活動、学校行事、その他校内での日常生活など、中学校等での学校生活全般の中で、あなたがどんな活動や行動をしていたのか、具体的な事実とともに記載されます。



自己申告書・調査書の「活動/行動の記録」は何に使うの？

- A. 一般選抜と特別選抜（実技検査を行う場合）のボーダーゾーン（合否ボーダーラインの上下 10%）内の合格者を決定するときや、特別選抜（面接を行う場合）で、募集人員の上限 50%までの合格者を決定するときの判定資料となります。一般選抜（通信制の課程）、二次選抜及びその他の入学者選抜では、面接の参考資料とします。
自己申告書や調査書の「活動/行動の記録」に書かれていることが、その高校の「アドミッションポリシー（求める生徒像）」に合っているかどうかを判断します。



自己申告書には、どのようなことを書くのですか？

- A. 例えば、「中学校等の3年間で何を学んだか。また、それを高等学校でどう生かしたいか。」「3年後の自分を想像してみる。」など、あらかじめ教育委員会が示したテーマについて、これまでの経験や、今考えていること、将来の希望などを文章にします。



学力検査は、すべての学校で同じ問題なの？

- A. 国語・数学・英語は、難易度別に、特別選抜では2種類、一般選抜では3種類の問題を作成します。各高等学校が使用する問題の種類は、事前に公表します。
平成 29 年度選抜については、下記の URL に掲載しています。

<http://www.pref.osaka.lg.jp/kotogakko/gakuji-g3/index.html>



各校のアドミッションポリシーや学力検査問題の種類はいつわかるの？

- A. 毎年、夏頃に公表しています。平成 29 年度選抜については、すでに公表し、大阪府教育委員会の下記 URL にも掲載しています。

<http://www.pref.osaka.lg.jp/kotogakko/gakuji-g3/index.html>



総合点はどやって計算するの？

- A. ◆選抜によって、総合点の計算方法は異なります。

*一般選抜（通信制の課程を除く。）、特別選抜（面接を行う場合）

- (1) 学力検査の各教科の成績を合計します。
- (2) 調査書中の各学年の各教科の評定の合計に、教育委員会が定める倍率を乗じて合計します。
- (3) (1)と(2)で算出した点数に、各高等学校が選んだ学力検査と調査書の評定の倍率をそれぞれ乗じて合計します。

*特別選抜（実技検査を行う場合）

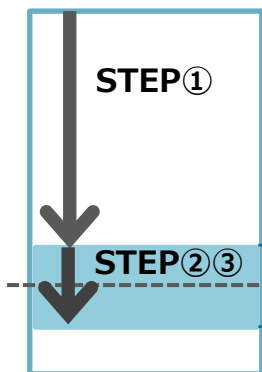
- (1) 上記一般選抜等と同様に計算した点数に、実技検査の成績を加えた点数になります。



合格者の決定方法は？

- A. 一般選抜、特別選抜の決定方法は以下のとおりです。

*一般選抜（通信制の課程を除く。）、特別選抜（実技検査を行う場合）



STEP① 募集人員の 90% 総合点の高い者から合格とする。

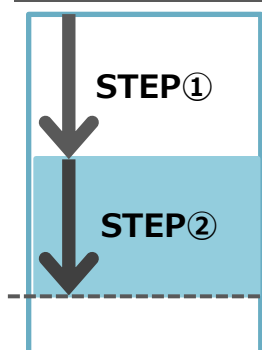
STEP② 募集人員の 10%以内 ボーダーゾーン（合否ボーダーラインの上下 10%）内で、自己申告書、調査書の「活動/行動の記録」がその高校のアドミッションポリシー（求める生徒像）に合う者を合格とする。

STEP③ 募集人員の残り 総合点の高い者から合格とする。

合否ボーダーライン

ボーダーゾーン（合否ボーダーライン上下 10%）

*特別選抜（面接を行う場合）



STEP① 募集人員の上限 50% 学力検査の成績が一定以上だった受験生のうち、その高校のアドミッションポリシーに合う者を合格とする。評価は、面接：自己申告書：調査書の「活動/行動の記録」= 2：1：1で行う。

STEP② 募集人員の残り 総合点の高い者から合格とする。

合否ボーダーライン



大阪府教育委員会が作成した英単語集は、どの高校の入試で必要ですか？

- A. 大阪府の公立高校の「英語」の学力検査では、基礎的問題・標準的問題・発展的問題のいずれでも、この英単語集にある単語を使用します。受験生の皆さんは、英語の学習に、この単語集を使ってください。（大阪府教育委員会の下記の URL にも掲載しています。）

http://www.pref.osaka.lg.jp/kotogakko/gakuji-g3/eng_sam.html



英語の「外部検定のスコア等」は、いつ何をどこに提出すればよいの？

- A. 出願の準備をする時に、外部検定のスコア等を証明する証明書の原本を中学校等に提出します。中学校等は、そのコピーを作成し、内容が間違いがないことを証明しますので、その書類を出願時に志願書と一緒に志願先高等学校に提出してください。



英語の「外部検定のスコア等」で申請できるのは、いつ取得したもの？

- A. 取得した時期について定めはありません。つまり、数年前に取得したものでも、出願の直前に取得したものでも、本人が取得したものであれば有効です。



「外部検定のスコア等」を申請すれば、英語は学力検査を受けなくても大丈夫？

- A. 「外部検定のスコア等」を申請した場合でも、学力検査「英語」の受験は必要です。受験しなかった場合は、学力検査未受験となり不合格とします。学力検査を受験したうえで、「学力検査の点数」と「外部検定のスコア等に応じて最低保障される点数」とを比べ、高い方の点数を学力検査「英語」の点数とします。



「外部検定のスコア等」に応じた点数保障は、問題の種類によって変わるの？

- A. どの英語の学力検査問題でも、保障される点数は同じです。例えば、英検 2 級取得者であれば、「基礎的問題」「標準的問題」「発展的問題」のうち、どの問題を受験しても、特別選抜なら 36 点、一般選抜なら 72 点が保障されます。



チャレンジテストは、何のためにやるの？

- A. 「チャレンジテスト」は、中学生等を対象にした大阪府内統一のテストです。このテストは、中学生等の皆さんが自分の学習状況を正しく知り、目標を持って学習に取り組むことを目的に実施します。加えて、調査書の評定の決定にあたって、公平性が保たれるように、このチャレンジテストの結果を使います。ただし、チャレンジテストを受けていない場合でも、選抜を受験することは可能です。

*チャレンジテストの実施時期・教科

学年	実施時期	対象教科
1年生	1月	3教科：国語・数学・英語
2年生	1月	5教科：国語・社会・数学・理科・英語
3年生	6月	5教科：国語・社会・数学・理科・英語



チャレンジテストの点数だけで、調査書の評定が決まるの？

- A. 皆さん一人ひとりの調査書の評定は、授業、宿題、テストなど、中学校等における皆さんの頑張りをもとに中学校等が決定するものです。チャレンジテストの点数は、入試で使う評定が、府内のどの中学校等でも公平につけられるよう、府内統一のルール（「評定の範囲」や「評定平均の範囲」）の中で使うことにしています。

*チャレンジテストを使った府内統一ルールと調査書の評定の関係

学年	府内統一ルール	ルールの使い方
1・2年生	評定の範囲	生徒個人のチャレンジテストの点数が「評定」に対応した「評定の範囲」に収まっていることを確認
3年生	評定平均の範囲	各中学校等全体の「評定平均」が、各中学校等全体の「評定平均の範囲」に収まっていることを確認